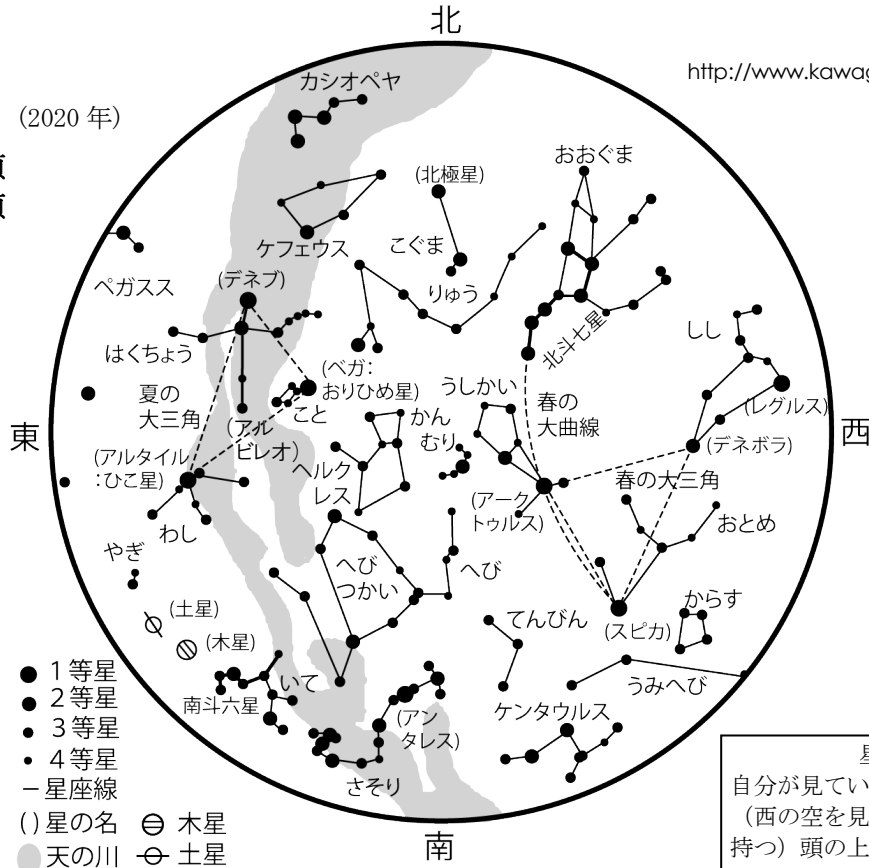


今月の星空



7月 (2020年)
上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○ 満月 5 日、● 下弦 13 日、● 新月 21 日、● 上弦 27 日

惑星情報

水星 明け方 東 (ふたご座 1→-1 等) ※下旬以降
金星 明け方 東 (おうし座 -5→-4 等)
火星 真夜中 東 (うお→くじら→うお座 -1 等)
木星 真夜中 南 (いて座 -3 等)
土星 真夜中 南 (やぎ→いて座 0 等)

★七夕の星と天の川

7月7日は七夕。東の空にある夏の大きな目印に七夕の星を探してみましょう。こと座のベガが「おりひめ星」、わし座のアルタイルが「ひこ星」です。そして、七夕といえば天の川も欠かせません。普段、街中では天の川を見ることができませんが、天の川的位置を知っておけば、いざ、空気の澄んだ星がよく見える場所を訪れたときに見つけやすいはず。天の川は、①おりひめ星とひこ星の間を通っている、②はくちょう座のデネブ(尾)～アルビレオ(くちばし)の並びと同じ方向である、③天の川上にある目立つ星座…カシオペア座(北)～はくちょう座～さそり座(南)を結んでいなど、探すコツがあります。

★二大惑星、木星・土星の観望シーズン到来

南東の空に、木星(約-3等)と土星(約0等)が並んで昇ってきました。この2惑星は、木星が14日に、土星が21日に相次いで衝(しょう)となります。衝とは、右図のとおり、地球から見て木星や土星が太陽の正反対の方向に来るときです。この時期は、①地球に近い＝大きく見える(望遠鏡で見たとき)＝明るい、②一晩中見える(日暮れとともに昇り、日の出とともに沈む)ため、観測に適しています。衝以降、12月頃までは宵の空でこの2惑星の共演を楽しめます。

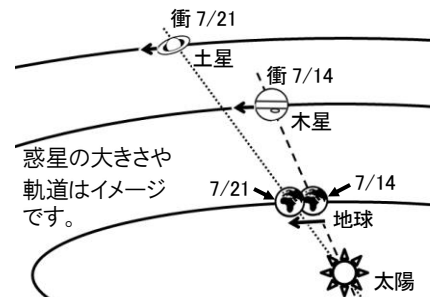


図 衝のときの太陽-地球-木星・土星の位置関係

ワンポイント 夜空では木星と土星は並ぶように見えていますが、実際には同じ方向にあるだけで、土星は木星よりも2倍以上遠いところにあります。衝の時期、地球から木星までの距離は約6億2千万km(太陽-地球間の約4倍)、土星までの距離は約13億5千万km(太陽-地球間の約9倍)です。